



かたぐい

学校教育目標

夢ふくらませ 心かがやく



令和4年度
第30号

2022. 11. 8

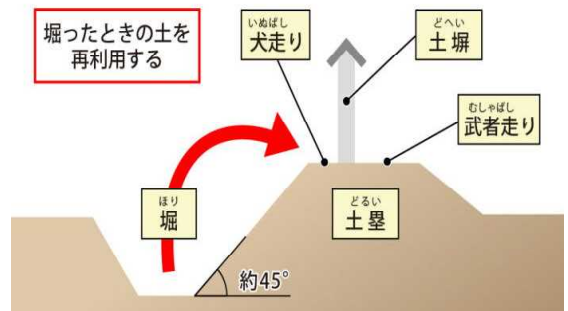
「6年くりっこ探検隊」

～地域の基礎を築いた「戸沢氏」の足跡を体感しよう～

10月26日（水）、6年生のくりっこ探検隊の活動が行われました。史跡見学や埋蔵文化財センターの方のお話を通して、西明寺地区に門屋城を築城し、その後、北浦一帯を治め農耕の礎を築いた戸沢氏の歴史について関心をもつとともに、「戸沢氏祭り」について、どのように継承していけばよいかを考えることなどをねらいとしています。

6年生は、これまでに西木地区の縄文・弥生遺跡（埋蔵文化財センター出前授業）や戸沢氏の歴史（門脇光浩さん）について事前学習を行い、地域の歴史についての興味関心を高めてきました。そして、26日の活動は、現地で門屋城がどのようなつくりになっていたのかを、門屋城址内を歩きながら、埋蔵文化財センターの方に説明していただきました。

門屋城址内では、主に土塁（土で築いた「塁」：とりで、堤防）の上を歩きながら、曲輪（尾根や斜面に造成してつくった平坦地）、切岸（曲輪の周囲を切り崩してつくった人工の急斜面）や堀、土塁の役割や作り方（堀を掘った土を盛り上げる、堀は空堀になる）、犬走りや武者走りといった兵や馬が動く土塁上のスペースの呼び名と役割などについて、実際の場所に移動しながら説明していただきました。



また、同日のくりっこ探検隊の活動前には、門屋城址近くの小山田大浦川内の館下橋付近の露頭で地層も観察していたのですが、門屋の地層（薄い凝灰質砂岩、シルト岩、泥岩の互層）が、土塁に適していたこと、すぐ下を川が流れ、自然の水堀でもあり船での輸送など交通の便もよかったことなどもお話ししていただきました。

実際に門屋城があった場所で、見る、聴く、触れるといった五感をフル活用した活動を通して、子どもたちは、数百年前の戸沢氏の生活に思いを馳せることができたようでした。この様子は、埋蔵文化財センターFacebook「あきた 埋文」にもアップされる予定です。

地域案内人としてご協力いただいた埋蔵文化財センターの皆様、そして、地域学校協働活動推進員と実行委員の皆様など、当日は5名の皆様方から、ご指導、ご支援、ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。



※追記：地層観察時には、その付近から発見された巨大サメの脊椎骨化石についての話もありました。千葉県の方が、たまたま動物の骨が含まれた化石を発見し、その実体解明と地層確認のため県立博物館が現地調査を行った際、新たに連続した脊椎骨が発見されたそうです。巨大なサメの連続した脊椎骨の化石が大量に発見されたのは、日本で最初のようなようです。なお、現在、その化石は、西木庁舎に展示されています。また、以下は、秋田県立博物館研究報告書「秋田県仙北郡西木村産サメの脊椎化石について」のアドレスです。読み進めると、当時の調査に関わった西木の方々のお名前（よく知っている方のお名前が…）もありました。こちらも、ぜひ、読んでいただきたいです。

https://www.akihaku.jp/sp/publication/report/29/aktpmrep29_025-032.pdf